

青少年育成センターだより

第14号 平成29年3月



梅一輪 一輪ほどの あたたかさ (服部嵐雪)

(早春、庭の梅がぼつぼつ咲き始めて、一輪ずつ咲くごとに、日に日にあたたかくなっていく)

今月、7日には公立高校の入試があります。また、大学受験の高校生も多いのではないのでしょうか。不安になり、イライラしている子どももいるでしょう。受験は子どもにとって大きな試練です。親として特別なことをすることはありません。子どもが体調を崩さないように、またストレスを溜めないよう、自然に見守り、寄り添ってやることです。

人は人によりて人となる



覚えておられるでしょうか? 「青少年育成センターだより第5号」で “心の栄養は愛情です。子どもにしっかり愛情をかけてやってください” という趣旨のことを書きました。子どもは親の愛情を感じることで、心が安定し、健全な生活を送ることができるのです。

ここで二つの話を紹介します。

1920年、インドのカルカッタ付近で発見された狼に育てられた2人の少女の話である。下の子は発見された翌年に死んだが、上の子はその後8年大事に育てられたにもかかわらず、ついに直立歩行も言葉の使用も完全にマスターすることができなかった。・・・

カンボジアで、9歳の時に水牛の世話をしていた行方不明になった少女が、18年ぶりに発見され保護されたというニュースがあった。27歳になっている彼女はジャングルで暮らしていたらしく、言葉を理解せず、服は破り捨て、四つん這いで歩き、すっかり野生化しているという。・・・

これらの話を聞かれた方もあると思います。これは動物によって育てられた子どもは人間界に戻っても、普通の人間生活を送ることができなかったということです。

これらの話から学べることは何でしょうか? 「人は人として生まれても、人間として成長することができるわけではない」「人は人によりて人となる」ということではないでしょうか。

人は人との間で愛情を注がれて育つからこそ人間となるのです。親子愛、夫婦愛、兄弟愛、師弟愛・・・、特に、親が子どもへかける愛情はとても大切なものなのです。子どもにはしっかり愛情を注いでやってください。そして、おじいちゃんにも、おばあちゃんにも愛情を注ぎ、温かい家庭を作りましょう。

人と人との関係、そこに愛情が存在すれば必ず満ち足りた生活が送れます。